

ロバのオス“ドン”の安楽殺について

個体名 ドン

生年月日 不明

来園月日 1995年2月9日

ロバのオス“ドン”は1995年に来園以来、多くの皆さんに愛されてきました。リニューアル前までは牧場エリアでラマやウシと一緒に過ごし、その後は“ドン”の健康管理をより手厚くするためにポニー舎で暮らし、穏やかに過ごしていました。

実は、数年前までは削蹄時や蹄の裏彫り時には大暴れする個体で、飼育員や装蹄師でさえ誰も手を付けられなかったのですが、毎日の手入れ時のコミュニケーションの積み重ねで肢をトントンと触ると自ら肢を上げて蹄を見せてくれるようにまでなっていました。

2019年には一時的に起立困難になりましたが何とか回復し、ごはんの内容を見直し、四肢や皮膚のケアを受けながら私たちの予想を上回る年齢までZOOMOの一員として頑張ってくれました。ロバの寿命は25～30年程度ですが、“ドン”は来園して31年が経っていたので2025年時点で推定31才以上と当園の動物たちの中でも長寿の個体でした。

2025年12月末から肝臓の疾患に対する治療と緩和ケアを行っていましたが、2026年1月15日（木）に起立不能となり、褥瘡（床ずれ）防止のために体圧を分散するマットの上へ移動して馬着やヒーターにより保温を強化しながら様々な食べ物を準備しましたが、リンゴジュース少量を口にしたのを最後に、呼吸数、心拍数ともに上昇し、意識がもうろうとし、横臥状態（頭を上げずに横たわっている状態）になりました。

その後も全身状態の悪化が見られたため、当園の判断基準に照らし合わせながら現場の獣医師や飼育担当とも協議を重ね、苦痛からの解放のために安楽死を選択することになりました。1月16日（金）の10時に注射麻酔により痛みや不安を取り除いた状態で、安らかに処置を終えました。

“ドン”を応援して下さった皆様、ありがとうございました。これまで沢山の方々にAmazonほしい物リスト等でご支援いただき、そして何より長い間可愛がってくださりありがとうございました。

“ドン”、長い間お疲れさま、ありがとう。

盛岡市動物公園ZOOMOの安楽死の判断基準

1. 治療を行っても回復が見込めない
2. 生活の質が低下したままである
3. 症状の進行により苦痛、痛みを伴う

これらの3つの判断基準に従って園内で協議を重ね判断しました。